

27年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年5月1日～ 27年5月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数54社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
入荷動向	国産材	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	外材	△ 12.5	△ 12.5	△ 25.0
在庫動向	国産材	△ 25.0	0.0	△ 12.5
	外材	37.5	0.0	△ 12.5

・国産材及び外材ラミナの入荷は、3ヵ月連続して減少。

・国産材ラミナの在庫は、5月の減少、6月の横ばい、7月は減少、外材は5月の増加が6月は横ばい、7月は減少。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	△ 16.7	0.0	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷価格は3ヵ月連続して保合。欧州材は、5月の弱保合が、6月は保合、7月はやや強保合。その他は3ヵ月連続して保合。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは入荷調整で減少、カラマツは北海道産ラミナが順調に入荷、岩手産は入荷状況悪い。スギは前月まで入荷調整したため在庫は減少、カラマツはスギ同様、在庫調整で在庫は減少。
・契約量が減のため今後の入荷は減少する。
・国産材は供給面の不安は余り感じられない、夏までこのまま行かたろう。外材は安定仕入が出来ている。製品在庫が多いうちは原料在庫を絞っていく。

(ラミナ価格動向)

・スギは丸太価格も下がっていないためラミナ価格も横ばい。スギラミナ同様にマツ丸太価格が高止まりでラミナ価格も依然変わらず。
・国産材は横ばい、欧州材はフレート分の上げとなる。
・為替の変動が大きく購入価格が分かりづらい。
・国産材は当面このままで行きそう。原木は若干下がるか。米ヒバは安定した価格で仕入が出来たろう。

27年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
生産動向	国産材	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	RW集成平角	△ 33.3	△ 16.7	33.3
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 37.5	0.0	0.0
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	RW集成平角	△ 33.3	△ 16.7	16.7
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は、5月の横ばいが6月、7月は減少、WW集成管柱は3ヵ月連続して減少。RW集成平角は5月、6月の減少が7月は増加、米マツ集成平角は5月の減少が6月、7月は横ばい。

・国産材集成材の出荷は、5月の減少が6月、7月は横ばい、WW集成管柱3ヵ月連続して減少、RW集成平角は5月、6月の減少が7月は増加、米マツ集成平角は5月の減少が6月、7月は横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
スギ集成管柱	△ 66.7	△ 50.0	△ 50.0	
ヒノキ集成柱	0.0	△ 50.0	0.0	
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0	
WW集成管柱	△ 75.0	△ 75.0	△ 75.0	
RW集成平角	△ 66.7	△ 50.0	△ 50.0	
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0	
WW集成平角	—	—	—	
米ヒバ土台角	0.0	△ 50.0	0.0	
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0	

・スギ集成管柱は弱含みで推移、ヒノキ集成柱は5月の保合が6月は弱含み、7月は保合、ヒノキ集成土台及びカラマツ集成土台は保合で推移。

・RW集成管柱及びRW集成平角は弱含みで推移。
 ・米マツ集成平角及びカラマツ集成平角は保合で推移。
 ・米ヒバ土台角は5月の保合が6月は弱保合、7月は保合。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・4月には荷動きが若干回復傾向にあったが、未だ本来の受注量までは回復していない。従って生産量も受注量と同様である。5月連休明け以降、若干荷動きは見られるが、本来の需要までとは行かず、盛り上がりには欠ける。今後も著しい回復は難しい。
 ・国産材全般、管柱は生産調整が必要、引き続き需要は弱い、回復は秋からか。
 ・需要減が続いたためやや減産、販売量減、先の見通し分からず。
 ・国産材構造用は当面は在庫も多いので減産はしない方向で、需要は少しずつ多くなって来ている。米ヒバ土台角は残業せず定時で決まった数量の生産を続ける。国産材構造材の出荷は、6月は4月とそれほど変わらないが、6月はビルダー向けが始まることにより多少の増加を見込んでいる。米ヒバは横ばいだろう。ヒノキの値下がりヒバに与える影響も多く、需要期に入っても、どんと増加とはなりにくい。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは大手集成材メーカーが打ち出している安値玉が先行し、販売先からの値下げ要請が強い。需給バランスを考慮すると当面の価格は低調で推移。カラマツの値下げは必至となっており、競合樹種の動向も加味し、値戻しが出来る環境になく、価格低調での推移が予想される。
 ・全般的に下げ止まらないと予測。
 ・下げ継続、今後止まる雰囲気あり。
 ・ヒノキは横ばいか一部でやや下落、競合メーカーとの価格競争が激しくなりそう。米ヒバ土台角はやや弱含んでいる、少し価格調整が必要などところもまだありそう。